

(全7枚中の1枚目)

③ 中学校・高等学校 家庭

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

①～②はすべての受験者が解答すること

1 次の(1)～(3)の説明文に最も関係のある栄養素名を下のア～クから1つずつ選び、その記号を書きなさい。

(1)

(2)

(3)

ア ビタミンA	イ ビタミンD	ウ ビタミンE	エ ビタミンB <sub>1</sub>
オ ビタミンB <sub>2</sub>	カ ビタミンB <sub>12</sub>	キ ビタミンC	ク ナイアシン

2 次の表は、食品添加物についてまとめたものである。(1)～(3)に適する用途名を書きなさい。

表

3 調味料の計量について、次の(1)～(3)に答えなさい。

(1)

(2)

(3)

4 次の(1)～(3)の文について、下線部について正しいものには○を、誤っているものには正しい答えを書きなさい。

(1)

(2)

(3)

5 次の(1)、(2)に答えなさい。

(1) 次の①～③に含まれる主なうま味成分の名称を書きなさい。

①

②

③

(2)

(全7枚中の2枚目)

③ 中学校・高等学校 家庭

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

6 次の(1)～(3)に答えなさい。

(1)

(2)

(3)

☒

7 次の(1)、(2)に答えなさい。

(1) 次の文は、消費者トラブルからの救済について述べたものである。①、②に適する語句または数字を書きなさい。

(2) 次の文は、国際消費者機構による「消費者の5つの責任」について示したものである。①～③に適する語句を、下のア～ケから1つずつ選び、その記号を書きなさい。

1

2

3

4

5

ア 有益	イ 社会	ウ 正しい知識	エ 住民	オ 国民
カ 問題意識	キ 公正	ク 興味・関心	ケ 安全	

(全7枚中の3枚目)

### ③ 中学校・高等学校 家庭

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

8 次の文を読み、下の(1)～(3)に答えなさい。

- (1) ①, ②に適する語句を書きなさい。
- (2) 右の図は、滅失住宅の平均築後年数の国際比較を表したものである。日本を表しているものをA～Cから1つ選び、その記号を書きなさい。
- (3) 日本では、災害で失われる住宅より、人為的に壊す住宅の方がはるかに多いといわれている。その理由を説明しなさい。

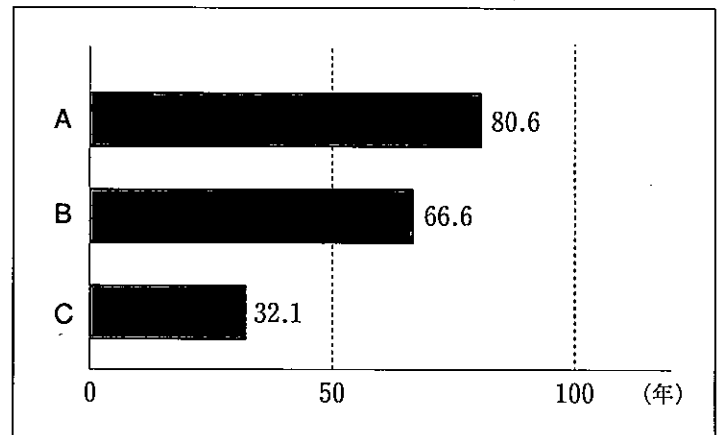


図 滅失住宅の平均築後年数の国際比較  
(国土交通省「2016年度住宅経済関連データ」)

9 次の文を読み、下の(1)～(4)に答えなさい。

- (1) ①, ②に適する数字を書きなさい。
- (2) 下線部aの空気層は何と呼ばれているか、書きなさい。
- (3) 下線部bのようになる理由を説明しなさい。
- (4) 夏の衣服の着装上の留意点について、次のア～エから適するものをすべて選び、その記号を書きなさい。

- ア 開口部を小さくする
- イ 肌の露出面積を大きくする
- ウ 吸湿性・吸水性・通気性の高い素材にする
- エ 起毛製品などの保温性の高い素材にする

(全7枚中の4枚目)

③ 中学校・高等学校 家庭

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

10 次の表は、繊維の分類と特徴について表したものである。下の(1)、(2)に答えなさい。

表

- (1) ①～③に適する繊維名を書きなさい。  
(2) A～Cに適する語句を次のア～ケから1つずつ選び、その記号を書きなさい。

ア 黄変	イ 収縮性	ウ 磁気	エ 伸縮性	オ 静電気
カ 緑変	キ 膨張性	ク 湿気	ケ 黒変	

11 次の(1)～(3)は、縫いしろの始末の仕方を表したものである。それぞれの始末の仕方を何というか、書きなさい。

(1)

(2)

(3)

(全7枚中の5枚目)

③ 中学校・高等学校 家庭

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

12 次の(1)～(3)のマークについて、あてはまる説明文を下のア～ケから1つずつ選び、その記号を書きなさい。

(1)

(2)

(3)

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	
カ	
キ	
ク	
ケ	

③ 中学校・高等学校 家庭

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

(中学校受験者のみ解答すること)

- 13 次の文は、新中学校学習指導要領(平成29年告示)「技術・家庭」の「家庭分野」の「内容」と「内容の取扱い」の一部である。①～⑩にあてはまる語句を書きなさい。

2 内容

B 衣食住の生活

(3) 日常食の調理と地域の ( ① )

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。

(イ) 食品や調理用具等の安全と ( ② ) に留意した管理について理解し、適切にできること。

(ウ) 材料に適した ( ③ ) 調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。

(エ) 地域の ( ① ) について理解し、地域の食材を用いた ( ④ ) の調理が適切にできること。

イ 日常の ( ⑤ ) 分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。

3 内容の取扱い

エ (3)のアの(ア)については、主として調理実習で用いる ( ⑥ ) 食品と加工食品の表示を扱うこと。(ウ)については、煮る、焼く、( ⑦ ) 等を扱うこと。また、魚、肉、野菜を中心として扱い、基礎的な題材を取り上げること。(エ)については、( ⑧ ) を用いた煮物又は ( ⑨ ) 物を取り上げること。また、地域の伝統的な行事食や( ⑩ ) 料理を扱うこともできること。

③ 中学校・高等学校 家庭

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

(高等学校受験者のみ解答すること)

- 14 次の文は、新高等学校学習指導要領(平成30年告示)「家庭」の「各科目」の「家庭基礎」の「内容」の一部である。①～⑩にあてはまる語句を書きなさい。

A 人の一生と家族・家庭及び(①)

(3) 子供の生活と保育

ア 乳幼児期の心身の(②)と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、(③)支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること。

イ 子供を生き育てることの意義について考えるとともに、子供の健やかな(②)のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察すること。

(4) 高齢期の生活と(①)

ア 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の(④)と(⑤)生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けること。

イ 高齢者の(⑤)生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察すること。

D ホームプロジェクトと(⑥)

生活上の課題を設定し、(⑦)に向けて生活を(⑧)的に探究したり、(⑨)したりすることができるよう次の事項を指導する。

ア ホームプロジェクト及び(⑥)の意義と実施方法について理解すること。

イ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、(⑦)方法を考え、計画を立てて(⑩)すること。